

あかるさかおるの スケッチブック No.18

バックナンバーは、町ホームページで
まとめて読むことができます▶



「あなたはどう思う？」

終戦から80年。酒田の土門拳写真美術館では「戦後80年記念特別展一語り継ぐ写真」が開催中です。

この夏、ガイドとして様々な国籍のお客さまとこの展覧会を訪れました。そのとき「今の日本人にとって戦争とは何？」と尋ねられ、一瞬言葉に詰まりました。戦争の悲惨さは知っているつもりでも、自分の言葉で語れない自分がいたのです。すると、その人は「あなたの意見でいいの。あなたに聞いているんだから」と返してくれました。

土門拳がヒロシマを撮り始めたのは戦後13年が経ってから。つまり、13年経ってもなお人々は苦しみの中にあったということ。そして今も世代を超えて、その苦しみは続いています。「あの一撃で戦争は終わった」と語った大統領もいましたが、どんな戦争も一度始まってしまうと、終わることは決まてないのだと思います。答えになったかどうかはわかりませんが、写真から感じたことをお話

しすると、彼女は別れ際ぎゅっと抱きしめてくれました。

知識ではなく、自分の意見を話すのは勇気がいることです。相手と違っていたら、気分を害したら、間違っていたら…そんな不安がよぎります。尋ねる側にとっても、重いテーマであればなおさら、異なる考えを受け止めるのは容易ではありません。「あなたはどう思う？」とさらりと聞けるのは、自分と違う考えを排除せず、受け止める練習が日々できているからなのかもしれません。

分けるのではなく混ざること。閉じるのではなく開くこと。そこに新しい景色が広がるのだと、この日改めて感じました。話すきっかけをくれた異国のおばさまに、心から感謝しています。



【このコラムを書いている人】

すがわら さやか
菅原 明香（あかるさかおる）

アライアンス
ナリワイ ALLIANCE 代表
通訳ガイドやアート活動、コミュニティづくりなどを行う複業アーティスト。三川町在住、2児の母。

